

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	69.2	71.0	71.9	52.0	50
	(1.14)	(1.11)	(1.18)	(0.96)	(0.91)
R7 正答率の全国比		1.06		0.90	0.88

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語は県や全国の平均正答率を上回っているが、算数と理科においては、ともに県や全国の平均正答率を下回っている。
- 国語は県や全国の平均正答率を上回っているものの、内容「情報の扱い方に関する事項」が42.9と低い正答率になっており、課題である。
- 算数は複数の資料から必要な情報を選び、言葉を使って説明することや文章の中から必要な数量を選び出し答えを導く問題の正答率が低く課題である。
- 理科は選択式と記述式の正答率が低く、基礎的な知識・技能の定着が十分でないため、活用問題にも対応できていない。
- 授業やテストなどにおいて最後まであきらめずに問題を解こうと努力していることが分かった。
- 基本的な生活習慣が整っており、学校生活に満足している児童が多く、学ぶ土台ができています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「あてはまる」と回答している児童の割合が県や全国より低く、自己肯定感を高めていく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 各教科とも、正答数に個人差が見られたことから、個に応じた指導の工夫が必要である。
- 復習を定期的に行い、まずは基礎的な知識や技能の確実な定着を図る。
- 話し合いの流れ等を図や言葉を使って記録にまとめる学習などを取り入れていく。
- 複数の資料や文章から自分に必要な数値や事柄を見つける思考の場を増やし、さらに理由等を言葉や式で記述して説明する場を多く設定する。ICT活用による指導の充実を図る。
- タブレット端末等の活用による個に応じた指導の充実を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の内容を工夫し、条件作文等で書く力の向上を図り、前学年・前単元の復習を取り入れ知識・技能の定着を図る。
- 家庭学習強化週間を設定し、家庭学習の定着を図るとともに家庭の教育力向上を目指す。自主学習を奨励し、その目的や内容を明確にして自分の力を伸ばす学習に取り組ませる。